

さて、アヴァンギャルド・チャイナ展は大阪の国立国際美術館での展覧会が終了し、いよいよ残すは名古屋会場での開催となります。というわけで、作品の搬出作業のために大阪へ行ってきました。



↑ 国立国際美術館です

絵画作品は通常どおり、壁から外して輸送用の箱（クレートと言います）にしまいます。この辺の手順は、以前、クリムト作品の輸送の際にお話したとおりですね。一方、孫原+彭禹の《老人ホーム》などの場合はそうはいきません。電気回線をオフにした後、おじいさんをみんなで持ち上げて、箱にしまいます。



↑丁乙の絵画作品を壁からはずしていません。



↑ 《老人ホーム》のお爺さんを箱につめています

全ての作品を箱につめ終えたらトラックに乗せて名古屋へ出発です！名古屋へ帰ったら作品の展示が待っています。皆様に作品をお見せできるのも、もうすぐですよ。

(F.N)

* おまけ

国立国際美術館のある大阪、中之島は一見、ビジネス街なのですが、大通りを一本入ると色々なお店のある楽しいエリアです。中でも、国立国際美術館のすぐ横にある graf はおすすめです。graf は家具や空間のデザインから展覧会企画（注1）にいたる幅広い活動で知られていますが、2階のカフェもなかなか良いですよ。



↑ 塩キャラメルバタークレープ！

注1：ただいま愛知芸術文化センターで展覧会をされている三沢厚彦さんとも、4月より軽井沢メルシャン美術館で始まる展覧会をはじめ、しばしば一緒にお仕事されています。